

第1回 脳血管医療センター名称部会議事録	
日 時	平成26年4月10日(木) 17時00分～18時30分
開催場所	崎陽軒本店 6階 3号室
出席者	〔委員〕 藤井清孝部会長、篠原弘子委員、林貞三委員、古谷正博委員、吉井宏委員 〔病院経営局〕 高橋俊毅病院事業管理者、城博俊病院経営局長、新井勉計画推進担当部長、他 〔脳血管医療センター〕 山本勇夫脳血管医療センター病院長、加藤利彦脳血管医療センター管理部長、他
開催形態	公開（傍聴者4人）
議 事	(1) 脳血管医療センターの病院名称について (2) その他
決定事項	なし
議 事	<p>開 会</p> <p>○原田課長</p> <p>定刻になりましたので、これより第1回横浜市立脳血管医療センター名称部会を開催させていただきたいと思っております。</p> <p>お忙しいところお集まりいただきまして、ありがとうございます。本日進行を務めます、病院経営局計画推進担当課長の原田でございます。よろしくお願ひいたします。</p> <p>本部会でございますが、去る2月19日に開催いたしました、第4回横浜市立病院経営評価委員会におきまして、同委員会運営要綱第5条に基づいて設置され、部会長に藤井委員が就任されることが承認されてございます。その上で経営評価委員会から3名の方、その他の委員として2名の方にお願ひしておりまして、計5名から成る部会となっております。新たにお願ひさせていただきました2名の方につきましては、今回委嘱状をお席に準備させていただきましたので、ご了承いただきたいと思います。</p> <p>また、本部会でございますが、横浜市の保有する情報の公開に関する条例第31条に基づきまして、公開ということにさせていただいてございます。</p> <p>なお、傍聴の方についてでございますが、指定の場所で静粛に傍聴していただきたいと思います。よろしくお願ひいたします。</p> <p>また、横浜市では会議録につきましては、原則として公開することになっております。議事につきましても、原則として個々の発言者名及び発言内容を記載することにさせていただきます。会議録につきましては、事務局で調整したものを各委員にご確認いただいた上で確定いたしますので、1カ月以内に公開する運びになっておりますので、ご協力をお願いいたします。</p> <p>それでは、会議に先立ちまして、横浜市病院事業管理者の高橋よりごあいさつを申し上げます。</p> <p>○高橋病院事業管理者</p> <p>病院事業管理者の高橋でございます。このたびは名称部会委員にご就任いただきまして、まことにありがとうございます。</p>

	<p>ございます。</p> <p>なお、脳血管医療センターは平成 11 年に脳卒中専門病院として、救急から回復期まで一貫した医療とリハビリテーションで寝たきりを予防するという目的のもとで開設されました。その後の運営状況から設立されました経営委員会の答申を受けまして、病床の有効利用として医療機能を拡充し、現在では脳卒中、神経疾患、脊椎脊髄疾患とリハビリテーションの専門病院として市民に高度で専門的な医療を提供しております。名称につきましては、同じく平成 22 年の経営委員会の答申で、医療機能の見直しに合わせて病院名称も変更し、対外的に生まれ変わったというメッセージを出す工夫も必要とされ、平成 24 年度からの第 2 次中期経営プランの経営方針として病院名称を変更するとしております。</p> <p>こうしたセンターの特徴や背景をご理解いただきまして、市民や医療機関の皆様には選ばれ、安心し、納得してご利用いただき、センターで働く職員が誇りと愛着を持てるような名称にさせていただきたいと考えております。どうぞよろしくお願ひいたします。</p> <p>続きまして、本日初回の会議でございますので、まず委員の皆様のご紹介をさせていただきたいと思ひます。お手元の資料の中に委員名簿及び席次表をお配りしておりますので、ご参照いただければと思ひます。名簿は 50 音順とさせていただきます。</p> <p>まず、公益社団法人神奈川県看護協会会長の篠原弘子委員でございます。</p> <p>篠原でございます。よろしくお願ひいたします。</p> <p>横浜市磯子区連合町内会長会監事の林貞三委員でございます。</p> <p>林でございます。どうぞよろしくお願ひいたします。</p> <p>学校法人北里研究所理事長の藤井清孝委員でございます。</p> <p>藤井でございます。よろしくお願ひいたします。</p> <p>一般社団法人横浜市医師会会長の古谷正博委員でございます。</p> <p>古谷でございます。よろしくお願ひいたします。</p> <p>公益社団法人横浜市病院協会会長の吉井宏委員でございます。</p> <p>吉井です。よろしくお願ひいたします。</p> <p>委員の皆様は以上でございます。</p> <p>続きまして、病院経営局、私どもの幹部職員をご紹介させていただきます。</p> <p>先ほどごあいさつ申し上げました、高橋俊毅病院事業管理者でございます。</p> <p>高橋です。よろしくお願ひいたします。</p> <p>城博俊病院経営局長でございます。</p> <p>城でございます。よろしくお願ひいたします。</p> <p>新井勉病院経営局計画推進担当部長でございます。</p> <p>新井でございます。よろしくお願ひいたします。</p> <p>次に、脳血管医療センターでございますが、山本勇夫</p>
○原田課長	
○篠原委員	
○原田課長	
○林委員	
○原田課長	
○藤井委員	
○原田課長	
○古谷委員	
○原田課長	
○吉井委員	
○原田課長	
○高橋病院事業管理者	
○原田課長	
○城局長	
○原田課長	
○新井部長	
○原田課長	

	<p>病院長でございます。</p> <p>山本です。よろしくお願いいたします。</p> <p>加藤利彦管理部長でございます。</p> <p>加藤です。よろしくお願いいたします。</p> <p>以上でございます。よろしくお願いいたします。</p> <p>なお、大変恐縮でございますが、高橋事業管理者、城局長、山本病院長につきましては、ここで退席させていただきたいと存じます。よろしくお願いいたします。</p> <p>続きまして、私から、まず本日配付させていただいております参考資料等について確認させていただきたいと思っております。</p> <p>まず、右肩に参考資料1と入れてございますが、「横浜市立病院経営評価委員会運営要綱」でございます。参考資料2といたしまして、「横浜市の保有する情報の公開に関する条例」を添付してございます。参考資料3でございますが、「横浜市附属機関の会議の公開に関する要綱」を添付してございます。最後に、参考資料4といたしまして、脳血管医療センターの病院名称につきまして、私ども事業管理者から経営評価委員会委員長あての諮問書の写しを添付してございます。</p> <p>参考資料としては以上でございます。その他の資料につきましては、この後会議の中で使用させていただきたいと思っております。</p> <p>それでは部会長、よろしくお願いいたします。</p> <p><b>議 事</b></p> <p>(1) 脳血管医療センターの病院名称について</p> <p>○藤井部会長</p> <p>部会長を仰せつかりました、藤井でございます。どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>早速、議事に入りたいと思っております。本日の議事は「脳血管医療センターの病院名称について」です。まず、事務局より資料の説明をお願いします。</p> <p>○谷口センター総務課長</p> <p>脳血管医療センター総務課長の谷口でございます。どうぞよろしくお願いいたします。早速、資料の説明をさせていただきます。</p> <p>先ほどの参考資料の後ろについてございます、資料1-1というところをご覧いただければと思います。「名称部会 資料1-1」と右肩に書いてあるものでございます。地図のついているものです。</p> <p>1の「施設概要」でございますが、先生方は既に当センターのことはご存じかと思っております。平成11年に開院いたしまして、今年でちょうど15周年を迎えるということでございます。300床の病院で、救急・集中治療から回復期リハビリテーションまで担う病院でございます。右側の地図に市立病院と市立大学病院を示してございますが、この中で唯一の専門病院でございまして、位置的には横浜市南部の二次医療圏に属して、市立大学附属市民総合医療センターから約2キロ弱ほどの距離にございます。</p>
--	--

2の「主な運営実績」ですが、救急車の受け入れ件数は年間1000件ほど、手術件数は平成25年度で年間459件まで増加いたしました。そのうち250件は脊椎脊髄外科でございます。入院患者数は7万7797人、1日平均いたしますと213.1人ということで、病床利用率としては71%でございます。診療科別の割合で申しますと、脊椎脊髄外科が1万3863人で18%、神経内科が1万6917人で22%、リハビリテーション科が2万9381人で38%となっております。外来のほうは4万2264人、1日当たり173人で、科別の割合で申しますと、脊椎脊髄外科20%、神経内科34%、脳神経外科10%、リハビリテーション科12%となります。稼働額・診療単価は下のグラフのとおりでございます。左の入院のほうで申しますと、平成23年度は30億円ほどの収益がございまして、平成25年度は36億円まで約20%増加している状況でございます。

1枚おめくりいただきまして、「名称部会 資料1-2」という、A4判横のグラフをご覧ください。こちらのグラフは参考までに開院時からの主な経営指標の推移を示してございまして、上のグラフは病床利用率の棒グラフに、その要素となる新入院患者数と在院日数を重ねたものでございます。なお、平均在院日数については、回復期リハビリテーション病棟の患者も含めた、病院全体の在院日数でございます。平成18年度までは在院日数がおおむね50~60日で推移しておりまして、新入院患者数の増減に対応して病床利用率も増減しています。平成19年度以降、新入院患者数は増加傾向になっておりますが、平均在院日数の短縮が進みまして、病床利用率は70%前後で推移しているということでございます。

下のグラフのほうは開院以来の経常損益の状況ですが、上の線が市からの経営支援でございます繰入金額、下の線が繰入金を加えた上での経常収支額となっております。平成13年度から平成15年度まで18億円前後の繰り入れを受けながら、25億円前後の経常損失になっていました。平成17年度に地方公営企業に移行する際に繰入金を増額いたしました。12億円ほどの損失となっております。以降、繰入金を少しずつ削減しながら10億円前後の経常赤字が続いている状況でございます。

お戻りいたしまして、資料1-1の裏面でございますが、3の「医療機能拡大に向けたこれまでの取組」でございます。平成22年8月に横浜市立病院経営委員会から答申をいただきました。答申の抜粋を囲みにお示ししてございますが、名称に関しては、先ほど事業管理者のごあいさつにもありまして、場合によっては、医療機能の見直しに合わせて病院名称も変更し、対外的にも脳血管医療センターは生まれ変わったというメッセージを出すというような工夫も必要とされました。この答申を受けて、平成24年3月に策定いたしました第2

次中期経営プランにおきまして、医療機能の充実に合わせて、病院名称についても見直しするとさせていただきます。この第2次中期経営プラン期間中における医療機能の充実につきましては、その下にお示ししたとおりでございます。脳卒中医療の充実に加えまして、神経疾患、脊椎脊髄疾患への医療機能の拡充に向け、S C Uの独立や3テスラMR Iの導入、手術室の増設などの施設整備や医師等診療体制、この両面で充実を図ってまいりました。

おめくりいただきまして、「名称部会 資料2-1」でございますが、名称についての考え方をお示したものでございます。まず、改めまして当院の特徴を整理いたしますと、脳卒中、神経疾患、脊椎脊髄疾患、リハビリテーションの専門病院でございます。②以下にありますとおり、本市の脳卒中医療の中心的役割を担う病院であること、急性期から回復期まで一貫した医療を行っておりまして、神経難病の治療やリハビリテーションも行っている、脊椎脊髄領域でも側弯症や脊髄損傷など本市の中心的施設を目指しているなどでございます。

ここで1枚おめくりいただきまして、A3判の資料2-2のほうを先にご覧いただければと思います。類似施設の名称事例でございますが、病院名称の下にセンター名称を点線で区切って表示してございますが、これは院内標榜でございます。インターネットなどで各病院が広報している名称でございます。

上の(1)の脳卒中を急性期からリハビリテーションまで行っている病院でございますが、病院名称に脳血管、脳卒中を入れているところが多くなっています。大田記念病院のように、前段に「脳神経センター」を加えて病院名とする工夫をされている事例もございます。

中ほど、(2)が主に神経疾患を扱っている病院でございます。都立神経病院や国立精神・神経医療研究センターがでございます。国立宇多野病院のように、病院名とは別に「関西脳神経筋センター」とうたっているところもございます。

(3)の脊椎脊髄を主としている病院では、脊椎脊髄単独の病院が少ないこともございまして、病院名とは別に「〇〇脊椎脊髄センター」を称しているところが多くて、このような病院では病院名称は地名や人名を入れているところが多くなっております。

資料2-1にお戻りいただきまして、このような状況の中で「新名称に求められるもの」といたしましては、現在の当院にふさわしいものであって、ご利用される方がわかりやすく、医療スタッフも魅力を感じられるものにしていただきたいと考えております。

資料2-3をご覧ください。名称案の候補です。先ほど他病院の例もご覧いただきましたが、大きく分けて、地名や人名を入れているもの、病院の機能を入れているものがございました。それ以外にも病院のイメージを名称に加えている例もございます。それぞれについてメリ

ットやデメリット、現時点で我々が思いつく候補、それから近隣の事例等々をまとめてございます。説明は省略いたしますが、先ほどの「脳神経センター大田記念病院」や「弘前脳卒中・リハビリテーションセンター」、あるいはこの中にお示しした病院例のように、幾つかの機能とか地名とかを組み合わせている例も多くございます。

資料3でございますが、「今後のスケジュール（案）」でございます。次回4月下旬ごろを予定しておりますが、アンケートの内容や有識者意見聴取について確定していただければ、意見聴取、アンケートを実施いたしまして、その結果も参考にしながら、第3回のこの部会で名称案を選定していただければと考えております。

資料4-1になりますが、「市民・利用者からの意見聴取」についてでございます。

まず、1のアンケートですが、(1)ヨコハマeアンケート、(2)院内での利用者のアンケート、(3)当院のサイトでのアンケートという3つの案をお示ししてございます。(1)のeアンケートでございますが、あらかじめ登録されている市民の方約1900人に電子メールでお送りするものでございまして、1枚おめぐりいただいて資料4-2に昨年度の実施結果をお示ししてございます。回答率は3割～5割程度です。資料4-1に戻っていただきますが、ヨコハマeアンケートは、回答方法で単一選択式と複数選択式という形で回答を求めることができるようになってございます。市民の方に自由に病院名称を記載していただくこともできるというものでございます。

下の2にアンケートの質問項目の案をお示ししてございます。これまでご覧いただきましたように、病院名称は地名・人名や医療機能、イメージ、いろいろな要素を組み合わせている例が多いことから、それぞれの項目ごとに選択肢をお示しして、その中で複数選択でご回答いただくことではどうかという案でございます。最後の⑦のところに、具体的な名称案・ご意見があればご記入いただけるように、自由記載欄を設けているというのが案でございます。これはあくまでも本日の議論が円滑に行われますよう、アンケートのイメージとしてお示したものでございますので、ここの記載にとらわれずに、ぜひ先生方のご意見をいただきたいと思っております。

裏面の3、有識者への意見聴取案でございますが、ここでは(3)の「内容」のところに記載してあることを有識者の方にお尋ねしてはどうかと考えております。先ほど現在の当院にふさわしい名称をと申しましたが、名称を考えるに当たりまして、これまでの取り組みに対する評価や今後の方向性についてご意見をいただき、そういったご意見も踏まえた上で検討したほうがよろしいのではないかと考えてございます。また、仮にこの有識者への意見聴取を行うということであれば、どのような分野の専門家にお尋ねすればよいかと、こういったあたりをぜひご議論いただければと思っております。

	<p>説明は以上でございます。</p> <p>○藤井部会長      ありがとうございます。資料がたくさんで整理が難しいかもしれませんが、資料の説明が終わりましたので、これから議事を進めたいと思います。</p> <p>まず、資料1について、横浜市立脳血管医療センターの概要といったものについて、各委員の先生方、ご質問・ご意見はございますか。平成11年に開設して300床、診療科はご覧のような脳血管障害やリハビリテーション、こういったところが中心です。現在では脊椎脊髄疾患も取り扱っているという。今、臨床研究部門というものはありませんか。</p> <p>○加藤センター管理部長      昨年度まではきちんとした部門はなくて、院内の中で臨床研究部という標榜はしていたのですが、ことしの4月1日から臨床研究部を正式に発足させて、国とか薬品会社も含めて、いろいろな形でお金を導入することもできるようにしましたし、予算上でもきちんと臨床研究部の予算を明確にして発足したというのが今の状況でございます。</p> <p>○藤井部会長      委員の先生方、ご意見・ご質問はございますか。内容のことで、あるいは経営のことでよろしいかと思えます。概要についてはよろしゅうございますか。</p> <p>それでは、本日の主題であります名称について、議事を進めてまいりたいと思います。資料2-1に脳血管医療センター名称の考え方、資料2-2が類似施設、資料2-3に名称案候補として1つの考え方が示されているかと思えます。それから、資料3に今後のスケジュールの案が提示してあります。これらについて少し各委員の皆様のご意見をお伺いしたいと思います。どのようにいたしましょうか。順番で少しずつ、また何回でも回って結構ですので。どうぞ。</p> <p>○吉井委員      済みません。のどを痛めているので聞き苦しいと思えますけど、お許してください。概要のところから見ても、開院から経営に大分ご苦勞なさっているの、どうもお疲れさまです。実際のところは脳卒中を中心になさっていたのですが、現状としては医療というのは地域性がありまして、どうしても横浜市全体から脳卒中の患者さんを集めるわけにはいかないと思うのです。磯子中心の展開でいくと、想定される患者数は大体決まってくるから、一番この経営で問題になるのは、資料1-2で見るように、患者病床利用率だと思うのです。これが脳卒中だけを中心にやっていると、どうしても70%を超えればいほう、最近でも60%台ということがありますから、これが一番問題ということで、経営上は脊椎脊髄という形で、脳卒中だけではなくてそっちまで広げてくる、これは当然しようがないことで、経営上も間違えていないと思うのです。その中で、名称変更に関しては脳血管、脳卒中を、もちろん横浜市あるいは病院としてこれからはしっかりとやっていくということで、それを軸としてやりますよということがわかるような名称、それから脊椎脊髄の拡大の中でそういったものもやります</p>
--	---

	<p>よということを加えた名前、それからどうしても脳卒中だけではなくて、周辺の神経内科の領域、特に変性疾患は脳卒中を扱う病院では避けて通れないので、そこもしっかりとやると。その3本が、しっかりとやりますよということで入るような名称がふさわしいのではないかと私は思います。</p> <p>以上です。</p> <p>○藤井部会長      ありがとうございました。確かに脳卒中はいろいろな形がありますが、梗塞ないし出血もありますし、クモ膜下出血もありますし、例えば動静脈奇形とか、あるいはもっといろいろな新しいもの、そういうものを全部含めて脳卒中と表現していますし、さらには超急性期というものももちろん大事ですし、慢性的あるいは予防的な治療もきちんとコンスタントにこなしていくことで、病床利用率を高めることもあると思います。また、脊髄も中枢神経系ですから、先生がおっしゃるように、脊髄も、対象の1つとして考えるのもよいかもしれませんし、変性疾患とか、認知症に関してはまた少し変わってくるかとは思いますが、診療の中でそういったものも当然、いろいろなものがまざってくるとは思いますし、そういった病態に対する心づもりもぜひ必要かとは思いますが、どうぞ。</p> <p>○林委員      質問させていただきますが、横長の資料2-2の関係ですが、ここでいう脳血管医療センターの目標としている医療機関のうち、これを読みますと、公立の場合は秋田だけなのですか。あとはみんな公立ではない施設ですか。(1)の「主に脳卒中診療・リハビリテーションを行っている施設」という中で、公立といいますか、市とか県とかという意味合いからすると、秋田だけですか。ほかはそうではないのですか。</p> <p>○加藤センター管理部長      そのとおりです。(1)の中では秋田だけです。ちなみに(2)は国立も入っていますし、都立も入っているので、(2)は全部公立の病院です。(3)は全部民間の病院です。</p> <p>○林委員      そういう感じですね。それで、診療科目が本当に多いのですよね。そうすると、今の横浜市の脳血管医療センターの目標は、もし内容を変えたとすると、診療科目の増加というのはあり得るのですか。</p> <p>○加藤センター管理部長      ここに書いてある診療科目は、各病院のウェブと見比べると、インターネット上で見たものですので、そういう意味では、ここに書いてある病院も普通の総合病院に比べれば絞った診療科になっています。総合病院ですと、今もう30科とか40科とかと多くなっておりますので、脳血管についても、実際にはここに書いた診療科以外にも、循環器とか消化器内科とか糖尿病とか呼吸器とか泌尿器とか、合併症の患者の対応の診療科目としては届け出は出しております。ただ、基本的に主な診療科として書かせていただいたのが、ここに書いてある診療科になってございます。</p> <p>○林委員      だからお聞きしたいのは、この名称変更が診療科目を</p>
--	--

	<p>増加すると、そういう市の考え方はあるのですか。</p> <p>○加藤センター管理部長　　今回については、あくまでも脳卒中から神経疾患とか脊椎脊髄疾患のほうに広げるということで、一般の総合病院になっていくということではなく、その辺の中での機能拡大を行っていくということで、一般的ないろいろな診療科が増えていくという考え方を持っているわけではないです。</p> <p>○林委員　　例えばこの表を見ると、いろいろな科が入っていますよね。内科から消化器内科とか外科とか耳鼻咽喉科と随分入っているのだけれども、こういうようにいろいろと増えていっても、脳卒中とか、今目標にしている脳血管の関係は十分に治療が行えると、こういうことで考えていいのですか。</p> <p>○加藤センター管理部長　　そういうふうには今のところ考えてございません。基本的には、中村記念病院は中村記念病院の経営方針の中での機能拡大は行われているのだと思っております。その中でいうならば、脳血管医療センターの場合については、脳卒中から神経疾患、脊椎脊髄疾患への機能拡大を今考えておまして、その中での名称についてこの中でご審議していただければと考えてございます。</p> <p>○林委員　　そうすると、当初設立のときに考えた脳卒中とか、それをあくまでも堅持していくという考え方なのですか。</p> <p>○加藤センター管理部長　　脳卒中については堅持していくと。さらに機能拡充として、脊椎脊髄、神経疾患について広げていくということです。</p> <p>○林委員　　いろいろといっぱい書いてあるから。</p> <p>○吉井委員　　いいですか。</p> <p>○藤井部会長　　どうぞ。</p> <p>○吉井委員　　この表の意味ですけど、まず病院名称というものと、それから診療科目と、いっぱいありますけど、これは標榜科目で、例えば外に病院の看板を出しますよね。そうすると、病院の名前と、こういう科目を標榜していますよという形で出せるものは、この診療科目だと思うのです。では、実際にどういう診療をやっているか、外来の名前とか、そういうものはまた別に、病院の中ではもうちょっと具体的な、この標榜科目にとらわれない形で出せるので、あくまでもこの診療科目とは、実際どうしてお医者さんがいて、どういう科目を標榜していますよということであって、消化器内科の先生がいても、この先生が脳卒中の患者さんにかかわったり、いろいろなことがあるわけです。だからあくまでもこの診療科目とは外に出せる看板に表示する科目だと思いますので、余りここにこだわって名称を決める必要はないのではないかと思います。</p> <p>○林委員　　先生、申しわけないですけど、今のお話ですと、標榜科目と実際の診療する科目と違って、いいとは言っていないけれども、できない場合もあるのだと、こういうことなのでしょうか。例えば内科という標榜科目が外の看板に書いてあると。しかし、では内科と書いてあるからかかろうかといった場合には、できないというケース</p>
--	---

	<p>は随分あるのですか。</p> <p>○藤井部会長 ○林委員 それはあり得ると思います。 そうすると、看板に書かれてあってもできないということはあるのですか。</p> <p>○藤井部会長 あると思います。というのは、例えばこういう上がっている中でメインの診療科が、例えば脳卒中内科とか、脳神経外科とか、あるいは脊椎脊髄外科とか、そういったものがあれば、あとのほかのものはそれを支えるための診療科ということになると考えたほうが良いと思います。そうしないと、生活習慣病のように、いろいろなベースがあって、1つの疾患だけを治せばいいというわけではありませんので、そういうものを支える診療科と考えたほうがよろしいかと思えます。</p> <p>○林委員 全く素人なのでわからなかったのだけれども、外から見た場合に、例えば神経内科とか内科とか整形外科とか、そうあった場合には、行ったら診療してもらえののだと、通常はそういうふうに思ってしまうのだけれども、それは標榜であって、実際の中身の診療とは若干異なるということもあるのですね。</p> <p>○藤井部会長 それこそ、例えば神経内科の医師が10人いたとしても、呼吸器内科とかは1人とか、場合によっては応援の医師で支えるようなこともあり得るだろうと思います。</p> <p>○篠原委員 ○藤井部会長 ○篠原委員 違う質問でよろしいですか。 どうぞ。 質問というより意見になります。今後のスケジュールなどを見させていただきまして、アンケートなどをとるに当たって職員が全く考慮されていないというところが、私は気になりました。例えば院内にアンケートのボックスを置くというのがあったのですが、働いている職員たちはその患者さん用に設置したアンケートに勝手に入れる程度なのかなというイメージで今考えたのですが、本来、職員というのはこういう場合、非常に大事なのではないかと思うのです。CS活動でも内部顧客と言われるぐらい、職員というのはその病院に対する帰属意識をいかに持つかということが、その病院を愛する気持ち、愛院精神にもつながりますし、結果的にはそのことが現場での仕事への意欲とか職務満足につながるという関係になっていくと思いますので、自分が働く病院の名称を考えるに当たって、職員はどういう意見を持っているのかということも吸い上げていくとか、参考にしていくことは大切なことなのではないかと思うのです。このスケジュールの中に職員へのそういったアンケート調査などが全くないので、ぜひそのことを入れていただければ、またそれが今後の病院の運営上の活性化にもつながっていくのではないかと思います。よろしくお願ひします。</p> <p>○藤井部会長 ○加藤センター管理部長 これはいかがでしょうか。 この部会の中でそういうことを決めていただければ、私どもとしては職員からアンケートをとることはできますので、それも参考にしていただいて名称を考えてい</p>
--	---

	<p>ただくということは可能だと考えてございます。</p> <p>職員というのは、当然、脳血管医療センターの病院の職員の方々ですね。職員は何人ぐらいいらっしゃいますか。</p> <p>400人くらいおります。</p> <p>いろいろな職種の方とか考え方をお持ちの方がいらっしゃると思うのですが、その辺どういうふうか、自由にアンケートをとるか、あるいはある程度工夫してとるか、いろいろなことがあると思います。</p> <p>本日決めていただければ、次回までに職員用のアンケート案とか患者さん用のアンケート案とか、いろいろなアンケート案をつくってきまして、またご議論していただければと思います。</p> <p>では、資料4-1の「院内設置アンケートの活用」とは別にもう一つ、職員へのアンケートというものをぜひ考えるということではいかがでしょうか。</p> <p>よろしいでしょうか。</p> <p>どうぞ。</p> <p>私も篠原先生のご意見に賛成で、やはり職員の方が今後この病院をいかに活性化して頑張っていくかと。今回の名称の変更というのは非常に大きな意味を持つ行為だと思いますので、ぜひその辺のところはやっていただいたほうがいいのではないかと思います。</p> <p>先ほどの診療科についての確認ですけど、資料1-1に書いてあります、診療科の「神経内科・脳神経外科・脳神経血管内治療科・脊椎脊髄外科・リハビリテーション科」、このあたりまでが中心となる診療科目の病院を今後展開していくという理解でよろしいのでしょうか。</p> <p>はい。そのとおりです。</p> <p>篠原委員から大事なご意見をいただきました。ほかにございますか。よろしゅうございますか。</p> <p>それでは、もし今すぐほかにご意見がございませんでしたら、今までの各委員の方のご意見を踏まえて、今後変更することもあるのですが、このスケジュール案で進めることに関してはいかがでしょうか。これは資料3をご覧ください、今、職員の方へもアンケートをとることで追加がございしますが、eアンケートも含めて、こういったアンケートを進めて、時間的には大丈夫そうでしょうか。</p> <p>大丈夫だと思います。</p> <p>各委員の方々、よろしゅうございますか。では、これで進めることにいたします。</p> <p>それでは、市民アンケート、それから有識者への意見聴取となっております。これにもう一つ、職員のアンケートとかが出てくるかと思いますが、まず資料4-1の市民・利用者からのアンケート実施の案についていかがでしょうか。対象者については職員をつけ加えるということですね。</p> <p>もしよければ、今度は2のアンケートの質問項目の案</p>
○藤井部会長	
○加藤センター管理部長 ○藤井部会長	
○加藤センター管理部長	
○藤井部会長	
○古谷委員 ○藤井部会長 ○古谷委員	
○加藤センター管理部長 ○藤井部会長	
○加藤センター管理部長 ○藤井部会長	

	<p>について、この質問事項についてはいかがでしょうか。案の質問項目の①から⑦までです。よろしゅうございますか。</p> <p>○古谷委員 ○藤井部会長 ○古谷委員</p> <p>よろしいですか。 どうぞ。</p> <p>かなり具体的な質問項目になっているかと思うのですが、今までの横浜の市立病院ですと、横浜市立何々病院というふうに横浜市立が頭についているかと思うのですが、今後のこの名称変更についても横浜市立というのはやはり頭につくと考えたほうがよろしいのですか。</p> <p>○加藤センター管理部長</p> <p>何かで決まっているということではないのですが、横浜市の公の施設といいますか、横浜市の施設は横浜市何々、もしくは横浜市立何々というのが必ずついているのが現状でございます。</p> <p>○古谷委員</p> <p>つけなくてはいけないけど、つくのが普通だということですか。</p> <p>○加藤センター管理部長</p> <p>つけなくてはいけないという決まりはないですが、市立病院はすべて、みなと赤十字病院もそうですし、市民病院もそうですし、横浜市立というのがついていう状況はございます。だから大きな理由があつてつけないことはあり得るのかもしれないですが、通常はつけるという形になってございます。</p> <p>○藤井部会長</p> <p>それと病院とセンターは、特に使い分けはしていないのですね。</p> <p>○加藤センター管理部長</p> <p>もともとは病院というのしかなかったのですが、脳血管医療センターがつくときに脳血管医療センターという名前を初めてつけました。その後、市立大学附属の浦舟病院が市民総合医療センターとつけまして、今そういう意味では、みなと赤十字病院と市民病院と福浦の附属病院が何々病院になって、残り2つがセンターがついていうことになってございますので、これについてはどちらをつけるというようなルールはございません。</p> <p>○藤井部会長</p> <p>公的な病院であれば、センターを使ってもいいと思います。私立だと勝手にセンターを使うとまずいのではないかという。</p> <p>○加藤センター管理部長</p> <p>ちなみに厚生労働省の通達の中には、センター機能を名乗れるのは、ちゃんと公的にセンター機能を行っている病院しかつけられないことになっていきますので、先生が言われたように、私立の病院がセンターを出した場合については保健所で認められないことはあるとは思いますが。</p> <p>○篠原委員 ○藤井部会長 ○篠原委員</p> <p>よろしいですか。 どうぞ。</p> <p>このアンケートの項目の⑥に関係するのですが、「医療」というのをつけない考え方もあるのかなと私は思ったのです。がん医療センターとは言っていないわけで、だから今回何とか何とかともし並べたとしたら、余り長くなり過ぎないようにするためには「医療」をとる案もありかなとは思っているのです。</p>
--	---

○加藤センター管理部長	「医療」をつけなければいけないというルールは全くございませんので。
○篠原委員	そうすると、⑥にもう一つ、「センター」とすることも考えられると、3つ並んでもいいのかなと思います。
○加藤センター管理部長	それは可能だと思います。
○林委員	済みません。
○藤井部会長	はい。
○林委員	素人で申しわけないのですが、センターという意義とはどういうことなのですか。センターは確かに中心なのだけど。
○加藤センター管理部長	基本的に専門病院にしても総合病院にしても、その地域の中で名乗った医療の中心であると。例えばがんセンターでしたら、神奈川県立がんセンターですので、県内ではがんの中心的施設だということで、センターをつけても構いませんよという話になっています。そういう意味では、今、脳血管医療センターというのは脳血管疾患について市の中心的施設だということで、センターをつけても構いませんよという中で名称になっているという状況でございます。
○林委員	そうすると、センターを外すこともあり得るのですね。
○加藤センター管理部長	あくまでも名称上の話で、何々病院と名乗ってはいけないということはありません。例えば市民医療、救急医療の中心を担っている、三ツ沢にあります私どもの市民病院の場合は、市民病院ということでセンターという名称は使っていないと。でも実際には感染症とか防災とかということではセンター機能を担っている病院ですということもございます。
○藤井部会長	どうぞ。
○吉井委員	資料2-2の真ん中のところで「独立行政法人国立精神・神経医療研究センター病院」とあるのですが、「センター病院」というのは可能なのですか。
○加藤センター管理部長	可能だと思います。
○吉井委員	具体的にはセンター病院の中に、今までどおりの脳血管センターがある、それから脊椎脊髄センターがある、それから神経内科センターがあるみたいな形の運用になるので、大きい枠の中では、ぼんと「センター」というよりは「センター病院」のほうがいいのかなという気もしたので、可能であればそこら辺も。
○加藤センター管理部長	それも選択肢の中で可能だと思っております。
○藤井部会長	これは英語名も考えるのですよね。
○加藤センター管理部長	英語名については、今脳血管医療センターはストローク・アンド・ブレイン・メディカルセンターと名乗っています。英語名については正式名称ではないので、ストロークという脳卒中という言葉を使ってもいいのだと思っています。この場では英語名までは考えていただくかなくても結構だと思っておりますが、ただ、うちのほうのドクターとしては、英語にしても格好いいというか、海外的にアピールできるような名前にしたいという希望は持っているということは聞いてございます。

○藤井部会長	いや、当然、英語は考えるべきです。そうしないと対外的に。
○加藤センター管理部長	論文を書くときにアピールできるような英語名にしたいということを行っています。
○藤井部会長	そういうとき、メディカルセンター・ホスピタルとかというと、ホスピタルが余計なのです。
○吉井委員	そうですね。
○林委員	済みません、もう一つ。センターと病院とかという名前を両方つけるという意味ではなくて、治療に行こうかなという、市民なりがどっちのほうが行きやすいとかということはあるのですか。センターだと患者さんが増えて、病院だと患者さんが少ないとか、そういうことはあるのですか。
○加藤センター管理部長	その辺もわからないということもありましたので、今回ヨコハマeアンケートで市民の皆様に、どちらがいいですかというのを聞いてみようかという、アンケート項目をたたき台として入れてあるということです。
○藤井部会長	それと関係するかもしれませんが、長い名前になったら、愛称みたいなものがもう一つあったほうがいいのかなどは思います。
○加藤センター管理部長	うちの院長も、長い名前だと学会のときに手を挙げて名乗るのが大変だと言っていましたので、略称的なものを何かつくることは必要だと思います。
○藤井部会長	患者さんの立場としてももっと、今日はどこどこに行きますとか、そういう時も略称はいいかもしれませんね。
○林委員	そうですね。私なんか根岸駅からタクシーに乗るときに、センターまで言わなくても、脳血管と言うとわかってくれるのです。最近はそのような状態になってきているのです。
○藤井部会長	いろいろなことを考えながら名称を考えていただくということになります。 ほかにご意見はございませんか。もしよろしければ、今までの意見を踏まえてアンケート案をもう一度つくっていただいて、次回にご確認いただくということで進めたいと思いますが、よろしゅうございますか。ありがとうございました。
○林委員	それでは、次に有識者への意見聴取について、資料4-1の裏側です。意見聴取の内容、それから有識者候補について、もしご意見があればお願いしたいと思います。特に内容と有識者候補、(3)と(4)に書いてありますが、この辺のところでも少しご意見をいただければと思います。
○加藤センター管理部長	済みません。有識者ということの中で、全部医療関係者という。例えばみんな医師とか、これはそういうことを意味しているのですか。 この案では、聞く内容が医療関係のことということで、専門分野からの意見をいただきたいと思っていますので、基本的には医師から聞いていくのかなということなのでこの原案はつくられてございます。

○林委員	名称のことではなくて、診療内容というかそういう方面で、名称変更のために聞くのではないということですか。
○加藤センター管理部長	いえ、基本は名称変更のことを聞くのですが、その前に大前提として脳血管医療センターが今行っている神経疾患や脊椎脊髄疾患への医療機能拡大の方向性についてきちんと評価した上で、名称変更についてのご意見もいただき、さらには今後の脳血管医療センターの方向性についてもご意見をいただければというふうに考えてございます。
○林委員	余計なことでは済みません。そうすると、場合によっては名称変更しなくてもいいよなんていうことも考えられるということですね。これは別に結論づけているわけではないので。
○加藤センター管理部長	当然そういう形でお答えする有識者の方も出てくるかもしれませんが、私どもとしてはいろいろな意見をいただいた上で、それをここの場で皆様方にご議論していただきたいと考えてございます。
○藤井部会長	よろしいですか。ほかの委員の方々、どなたかご意見はございますでしょうか。どうぞ。
○篠原委員	このインタビューの内容は、黒丸の1番と3番は経営的な今後の脳血管医療センターの取り組みとか、そして経営的にも安定していくことを目標にして、それについてのご意見を聞くということになるのだらうと思いますので、そうしますと、この有識者の中には病院経営管理的な立場でご意見をくださる方も入れたほうがよろしいのではないかと思います。これからつける名称は、この病院を利用してくださる方が名前1つで少し変わる可能性もあるわけですから、そういった意味では、名称を変えることによる病院経営管理といった視点からどんな名前がいいのかと、そういったご意見も伺えたらいいのではないかと感じます。
○藤井部会長	<p>ありがとうございます。こういったメンバーも、経営も大事なことは大事ですね。ただ、経営と名称を結びつけるのは難しいかもしれませんね。でも病院経営管理、この辺の方も少し候補として挙げていただくといいと思います。</p> <p>ほかはよろしゅうございますか。どんな意見が出てくるか、ちょっと気になります。それでは、もしよろしければ、今いただいた意見をもとに、次回に具体的な人選を進めたいと思いますので、委員の皆様方もそれまでにもしこういった方がいいということであれば、ぜひご推薦をお願いしたいと思います。よろしゅうございますか。</p> <p>それでは、この議事（1）の病院名称については、次回に本日のご意見を踏まえて、アンケート案と意見聴取を行う有識者候補の案をお示しして取りまとめていきたいと思っております。この案につきましては、私のほうにお任せいただけますでしょうか。ありがとうございます。それでは、次回に案をお示しさせていただきます。委員</p>

	<p>の皆様方ももし次回までによい案がございましたら、ぜひ私のほうにご相談いただければと思います。</p> <p>(2) その他</p> <p>○藤井部会長 ○原田課長 ○藤井部会長 ○原田課長</p> <p>○藤井部会長</p> <p>閉 会</p> <p>○藤井部会長</p> <p>の皆様方ももし次回までによい案がございましたら、ぜひ私のほうにご相談いただければと思います。</p> <p>それでは、議事(2)「その他」とございます。事務連絡として何か事務局からございますでしょうか。</p> <p>その他としてお諮りする事項は特にございません。事務連絡を1点よろしいでしょうか。</p> <p>はい。</p> <p>毎回のことでございますが、議事録の公開に関してでございます。冒頭ご案内させていただきましたとおり、本日の議事内容につきましては、後日議事録としてまとめさせていただいた上で、内容のご確認をお願いしたいと思っております。その上で1カ月後をめぐりに公表させていただくこととなりますので、よろしくお願い申し上げます。</p> <p>以上でございます。</p> <p>ただいま事務局から議事録の公開について説明がございましたが、委員の皆様方のご協力をお願いいたします。よろしゅうございますか。</p> <p>ほかにならうでしたら、これで予定していた議題は終わりましたので、これをもちまして、第1回横浜市立病院の脳血管医療センター名称部会を閉会いたします。ご協力ありがとうございました。</p>
--	---

<p>資 料 ・ 特記事項</p>	<p>I 会議資料</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○横浜市立脳血管医療センターの概要について</li> <li>○主な経営指標・開院時からの推移</li> </ul> <p>○脳血管医療センター名称の考え方</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○（参考）脳血管医療センター類似施設</li> <li>○名称案候補について</li> </ul> <p>○今後のスケジュール（案）</p> <p>○市民・利用者からの意見聴取</p> <p>○平成25年度 e アンケート実施結果</p> <p>II 特記事項</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1か月以内に会議録は公開し、資料とあわせ閲覧に供し、ホームページに掲載します。</li> </ul>
---------------------------	---